



一般社団法人日本補償コンサルタント協会 沖縄支部

# 事務局報

NO119 平成29年1月号

〒900-0021

那覇市泉崎1-13-8

ハーモニー泉崎ビル2階

電話098-869-8570

Fax098-869-4044



一般社団法人 日本補償コンサルタント協会 沖縄支部支部長

桃原昌宏



## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。都市と地方の経済格差が広がり大きな社会問題となっている、常々関心を持っているものに「地産地消」があります。地域生産、地域消費の略語で、地域でとれた農林水産物をできるだけ地域で消費することによって消費者から生産者の顔が見え、話しができて愛着心や安心感が深まり更に地域の農業と関連産業の活性化が図れるという。野菜等の生ものを始め加工品にいたるまで県産品を消費することが肝要だといえます。さて、公共事業において必要となる土地、土地には建物があり人が住み生活を営んでいます。起業者はその方々に対して補償方法を考え適正な補償額を算定し交渉をしなければなりません。起業者の一端を担っているのが補償コンサルタントです。どの補償案件にも「人」がいます。土地、建物の権利者や関係人です。挨拶から始まり土地、建物を調べさせて下さい。営業の業種・顧客・業況を教えてください、確定申告書を準備して下さい。駐車場の利用状況を教えてください。と何度も権利者を訪ね生活や営業の実態を細かく聞き調べるのである。また、補償交渉においては〇〇さんの補償内容はこのようになっています、と繰り返し説明を行い補償額は・・・円です、そして成約となります。仕事の最初から最後まで権利者に会う、「人に始まり人に終わる」仕事を担っています。幸いなことに沖縄で生まれ育った私たちは沖縄の気

候風土・文化をよく知っている、生活習慣にも馴染んでいて同じ(ユヌ)沖縄の人(ウチナーンチュ)の価値観やものごとの捉え方を肌感覚で知っています。このように当たり前に身につけている知識や生活習慣が調査協力をお願いする際、補償交渉の際に大きな推進力となるのである、そのことは想像に難くない。県民の土地・建物そして住んでいる人々の生活を地元の補償コンサルタントが調査し補償交渉をする、とても理に適っていると言える。権利者にとって顔が見え、話しができて安心感が深まる。起業者にとっては成約率が高まり執行率が向上する。また、沖縄(地方)にとっては雇用を含め経済が活性化する地産地消そのものではないかと強く思うところです。沖縄総合事務局、沖縄県、市町村の起業者の方々には本年もご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。読者の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

## 1、 沖縄総合事務局用地課と意見交換会開催

12月9日(金)沖縄総合事務局用地課と意見交換会を開催しました。

### 議題

- ① 沖縄地区用地対策連絡会加入起業者が、業務発注にあたり、次年度の単価入換をサービス一を行うよう仕様書に記載している事の問題点②沖総局と支部の防災協

定関係(次年度から防災訓練に支部も参加する)

- ③沖総局の次年度の事業施工箇所等について意見の交換を行った。



## *attention*

※成果品は会社の顔である！  
※多重チェックを忘れずに！

### ひとりごと

(バンコック旅行) 11月20日から3泊4日でタイのバンコックにゴルフに行ってきました。(模合メンバーを中心としたもので、今回は12名) 私は3回目のバンコック訪問ですが、過去2回は2月頃の乾季の真っ盛りで気温が35度位で肌がチリチリ焼ける様な猛烈な暑さを記憶しています。今回は乾季の初め、昼間で30度、朝夕は25度程度、沖縄と変わらない気候でした。ゴルフ場は川、池等が縦横に張りめぐり難しいコースが多いです。コース内を1.2m位のイグアナ?が悠々と歩いている姿を見かけました。

ゴルフは1組4名プレーでキャディーは客一人に一人付きます。我々が行ったコースのキャディーはキャディー同士で賭けをしていました、当然自分の主人のスコアを賭けて！下手な主人(客)のキャディーは元気が有りません、(余り褒められた話ではありません、下手な主人(客)はキャディーにぞんざいに扱われる場合があります)

二日目のゴルフ場、終盤の16番ホールで友達が言いました「お前のキャディー男だよ、自分のキャディーに確認した。このゴルフ場にニューハーフが一人いる、それがお前のキャディーだよ。直ぐ分ったが言えばお前のスコアが崩れると思って言わなかった」私は今まで話声、仕草を観て女性と疑わなかった、由一、ガニ股歩きを除いて(嗚呼、恐るべし：タイ国)



### 寝ている大仏 涅槃寺(ワット・ポー)

#### (体の中の異物)

最近、年のせいか、運動をすると、足首、肘などが痛く、ゴルフの際は足首にテーピング、腕(かいな)にはサポーターを装着するなど、難儀な毎日が続いています。意を決し某整形外科に行き左足首と左肘のレントゲン写真を撮ってもらいました。医師はレントゲンを観ながら足痛の原因は不明、経過を観ることに結論。しかし、医師：「左肘に何か入っていますか？」私：「??×△?いいえ！」医師：「レントゲンに何か人工物が映っていますよ！」私、暫し沈黙：「あ！25~26年前に左肘に水が溜まるのでドレインを挿入し、水抜きをした記憶があります」。当時のドクターがドレインを取り忘れたか？私が自己判断で治療を止めて「物」だけ残ったのか？後日、2度の手術で摘出したのが長さ4cm、3cm、0.8mm直径2mm程のゴム製の管3個です。初回のオペで4cmを取り出した後のレントゲンの見ると未だ残っている箇所があったので2週間後改めてオペで除去したのが、3cm、8mmでした。私の左肘は4箇所の切開跡(カンパチ)が残りました。教訓：治療はドクターの完治指示があるまで止めないように！(しかし！ドクターの置き忘れかも？絶対に！)

あけましておめでとうございます。  
今年も宜しくお祈りします。